

子宮がん (頸部)

子宮がんによる死亡率の減少に大きく貢献している子宮がん検診には、二種類あります。

◎子宮の入口(頸部)を検査する頸部がん検診。

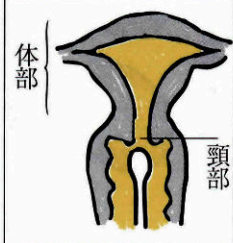
◎子宮の奥(体部)を検査する体部がん検診。(医療機関で受診することが望ましい)

子宮頸部がん検診

検診車等による集団検診では主に頸部がん検診が行われています。

一次検診ー細胞診と内診を同時に行います。

細胞診ー綿棒などで分泌物をこすり採って顕微鏡でがん細胞やがんの芽の細胞(異型細胞)の有無を調べます。



内診ー子宮が大きくなっているか、卵巣が腫れていないか、膣や頸管にトラブルはないかを診察します。子宮筋腫やポリープ、炎症等もわかります。

精密検査ー細胞診で疑わしいと

検診のしくみ

ころがあった場合、まずコルポスコップという拡大鏡で子宮の入口を観察します。コルポスコ

ップ検査で疑わしい結果がでた場合、その組織をこく



わずか摘み出してがん細胞かどうかを確かめます。

はずかしがらずに受けよう

正常な細胞が異型細胞になりがん細胞になるには何年もかかると言われていますので定期的な検診が早期発見に役立っています。

発症年齢のピークは40歳代ですが30歳未満や閉経後にも発症します。高齢だからとか、婦人科の診察をはずかしがっていては手遅れになります。

子宮がん検診は9月下旬から始まります。申込みがまだの方は保健センターにご連絡ください。

☎ 1132・231133

ながと文化財めぐり

瀬戸崎鋳物師の名品

極楽寺の梵鐘



有形文化財(工芸品)

昭和58・6・1(市指定)

仙崎の極楽寺(浄土宗)本堂に中型の梵鐘(総高九〇センチ、口径五三・八センチ)がつけられている。

梵鐘の表面に、寛永十六年(一六三九)、長州大津郡瀬戸崎(仙崎)極楽寺、奉寄進・永久某、住持・教誉上人(同寺八世)、鑄工・設楽清左衛門尉、長田仁兵衛尉などの刻みがあり、この梵鐘が江戸時代の初め、この寺のために設楽、長田という鋳物師の手で造られたことがわかる。

当時の瀬戸崎は鋳物の産地として栄えた。梵鐘に名のある二人もこの地の鋳物師。周辺の社寺には瀬戸崎で鑄造された梵鐘の記録も多い。極楽寺の梵鐘は当時を語る貴重な遺品といえる。

表紙の説明

9月21日(土)、赤崎神社楽棧敷での近松祭in長門'96「YAS I K A Z長門オリジナル野外公演」(前売券は2千円、中央公民館などで発売中)に向け、パークッション担当で出演する小学生を含む約50人は、7日・8日の2日間、本番に向け中央公民館で汗を流しました。

初の市民参加による近松祭in長門'96。YAS I K A Zさんの指導のもと、10代から60代までの出演者は練習にも一段と熱が入ります。

大型ステージも完成、当日は午後6時30分開演です。ステージや棧敷でのパフォーマンスが今から楽しみです。

市政の情報は、テレホンサービス「市政だより」でも行っています。

☎ 26030

市の人口(9月1日現在)

面積	152.38 km ²
人口	25,313人 (4)
男	11,757人 (6)
女	13,556人 (△2)
世帯数	8,866世帯 (8)

() 内は前月比